

株式会社CAC Holdings

会社説明資料

東証プライム 証券コード:4725

登壇者のご紹介

代表取締役社長

にしもり りょうた
西森 良太

1967年12月18日生

出身:千葉県

- 1994年 入社。国内外で金融機関向けシステム開発に従事
- 2007年 中核子会社シーエーシー 経営企画部長
- 2009年 執行役員就任
- 2011年 米国子会社社長
- 2014年 インド子会社で日系企業の顧客開拓を担当
- 2016年 当社およびシーエーシー取締役・執行役員
- 2018年 シーエーシー代表取締役社長
- 2021年 当社代表取締役社長就任



本日のポイント

安定配当を維持しながら、事業ポートフォリオの転換に取り組む

01 株主還元

2026年度 年間配当(予想)

100円

予想配当利回り 約5.2% / 配当方針 DOE5%水準

創業60周年

記念株主優待を実施

QUOカードPay 1,000円相当

02 事業ポートフォリオの転換

- ・生成AIの進化を好機と捉え、
主力の受託開発事業を転換

これまで システム受託開発



01
AIで
稼ぎ方を変える
AIを活用した
サービス型へ

02
場所を広げる
M&Aと新規事業で
領域を広げる

目次

会社概要

中期経営方針 CAC Vision2030①:事業ポートフォリオの転換

中期経営方針 CAC Vision2030②:今後の財務方針

株主還元

本日のまとめ

会社概要 —CACグループとは

中期経営方針 CAC Vision2030①:事業ポートフォリオの転換

中期経営方針 CAC Vision2030②:今後の財務方針

株主還元

本日のまとめ

会社概要

会社名	株式会社CAC Holdings
設立	1966年8月8日
所在地	東京都中央区日本橋箱崎町24-1
上場市場	東証プライム(4725)
従業員数	5,125名(2026年6月30日現在)
事業内容	ITサービス(システム構築、システム運用管理、人事BPOサービス)を国内外で展開するCACグループの経営戦略策定および経営管理

CAC 株式会社 **CAC Holdings**

企業理念

世界をフィールドに
先進のICTをもって新しい価値を創造する

CAC Vision2030

テクノロジーとアイデアで、
社会にポジティブなインパクトを
与え続ける企業グループへ



CACグループのビジネスモデル

多様な業種のお客さまの業務を深く理解し、企画・開発から運用・BPOまで担う受託型ビジネスが収益の柱

当社は現在、SIer(システムインテグレーター)として事業を展開

お客さま



■ 金融

35.4%

■ サービス業など

19.1%

■ 製造

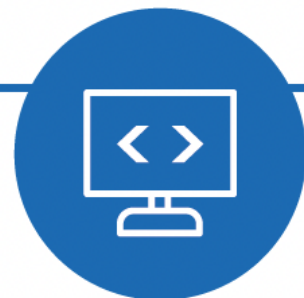
17.4%

■ 情報・通信

15.3%

■ 製薬

12.8%



システム開発

業務システムの開発・構築・保守

—— 金融・製薬を中心とした受託開発 ——
銀行・証券・保険・企業年金の業務系創薬・非
臨床・CSV／営業支援(SFA) AI・ブロック
チェーン・クラウド活用



システム運用

アプリ運用・インフラ構築／運用管理

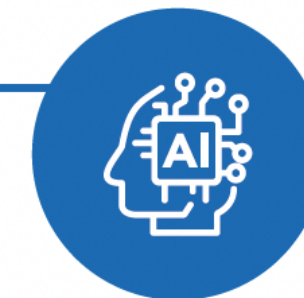
—— 開発～運用・保守を一気通貫 ——
AMO(アプリケーション・マネージメント・
アウトソーシング) 保守・インフラ運用管理ロ
グ・特権アカウントの一元管理



BPO

業務プロセスの受託(BPO)

— 人事・年金・廃棄物管理の業務を受託 —
人事給与BPO企業年金の管理・数理人業務
受託廃棄物管理BPO(JEMS)



プロダクト&サービス

グループ各社の自社プロダクト&サービス

—— グループ各社の自社プロダクト群 ——
モバイル・環境・介護・製造・AI など

事業の例:企業年金管理システム

企業年金の記録・計算・送金を支えるシステム。加入から受給までを一貫して支援



事業の規模:国内と海外、二つの柱で売上505億円

国内は受託開発が収益の柱。ニッチトップ・新規事業の創出に注力し、海外は現地企業向けが成長ドライバー

連結業績

CAC 株式会社 CAC Holdings

(2025年12月期実績)

売上高

505億円

調整後EBITDA

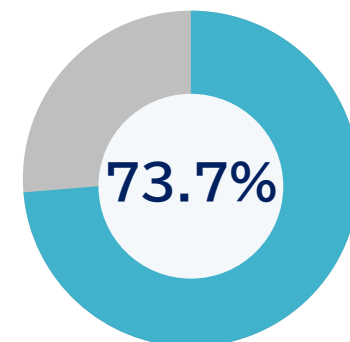
38億円

EBITDAマージン

7.5%

国内IT事業

売上高構成比



売上高

372億円

調整後EBITDA

40億円



システム受託開発事業
【収益の柱】

CAC 株式会社 シーエーシー



株式会社 アークシステム

ROSSO



CAC CrossFusion

INCULEAD
CONSULTING



ニッチトップ事業

株式会社 ハイテックシステムズ

株式会社 シーアイエム 総合研究所

recomot

JEMS
静脈インフラをITで創造する

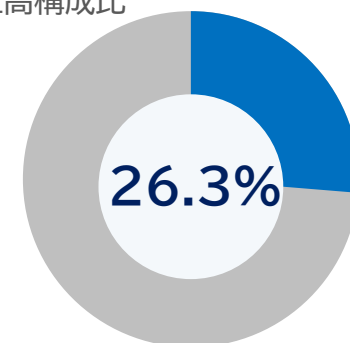


新規事業

CAC IDENTITY

海外IT事業

売上高構成比



売上高

133億円

調整後EBITDA

18億円



現地企業向けIT事業
【グループの成長ドライバー】

inspiriSYS
Solutions Limited



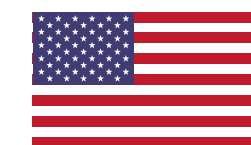
mitrais



日系企業サポート事業

CACアメリカ
CACヨーロッパ
CAC上海

高遠計算機技術(蘇州)



強み(フロー型とストック型・継続的な元請受注・海外比率)

つくって、動かし、引き受ける。長く続く国内のお取引に、海外の成長が加わる

1. フロー型とストック型ビジネスの両立

55% : 45%

フロー型ビジネス
システム構築など

ストック型ビジネス
システム運用・BPOサービスなど

2. 継続的なお取引を、元請(プライム)として受注

74%

お客さまとの継続的なお取引

国内売上上位30社のうち、
20年以上お取引が続くお客さま

99%

元請(プライム)としての受注

お客さまと直接お取引する
プライムコントラクターの比率

*2023年時点・中核子会社ベース

3. 海外事業が成長ドライバーへ

26%

海外IT事業の売上比率

売上に占める海外IT事業
(インド・インドネシア)の比率

- ・現地の企業向けにITサービスを展開
- ・市場成長が高いインド・インドネシアがメイン
- ・特定の国・市場に偏らないリスク分散
- ・日本の製品・サービスを現地企業へ広げる

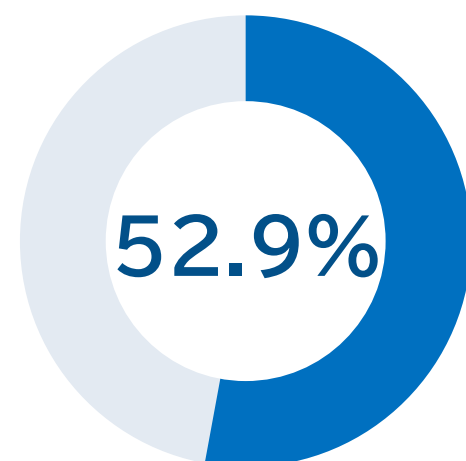
2026年の通期予想および進捗

売上高・調整後EBITDAは通期予想に対し堅調。成長投資の継続により、前年並みの業績を見込む

2026年度第2四半期時点の進捗(単位:億円)

売上高

通期業績予想に対する進捗率



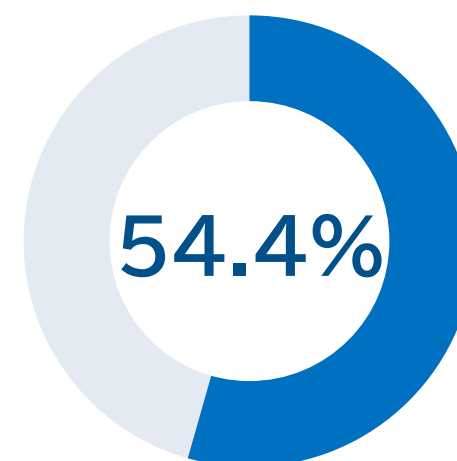
2Q実績 272億円

通期業績予想 515億円

前期通期実績 505億円

調整後EBITDA

通期業績予想に対する進捗率



2Q実績 20億円

通期業績予想 38億円

前期通期実績 38億円

参考

営業利益

13億円

前期通期実績 25億円

当期利益

14億円

前期通期実績 32億円

※業績予想は売上高・調整後EBITDAのみ公表

会社概要 —CACグループとは

中期経営方針 CAC Vision2030①:事業ポートフォリオの転換

中期経営方針 CAC Vision2030②:今後の財務方針

株主還元

本日のまとめ

中期経営方針①:環境認識 — AIの想定以上の発展と顧客ニーズの変化により、自らの変化が必要に

AIの進化は、想定をはるかに超えて速かった。2030年の世界が、もう来ている。

外部環境の変化(当社の環境認識)

AI技術の加速度的な発展

生成AIによりシステム開発が根本から変わり、多様なAIツールの登場で顧客主体の内製化が加速する可能性がある。

顧客ニーズの変化

現場部門のAI化・DX・自動化が加速する中、CIOや情報システム部門ではIT戦略やガバナンス、セキュリティ強化の重要性が増加している。

AIは危機であり、好機でもある

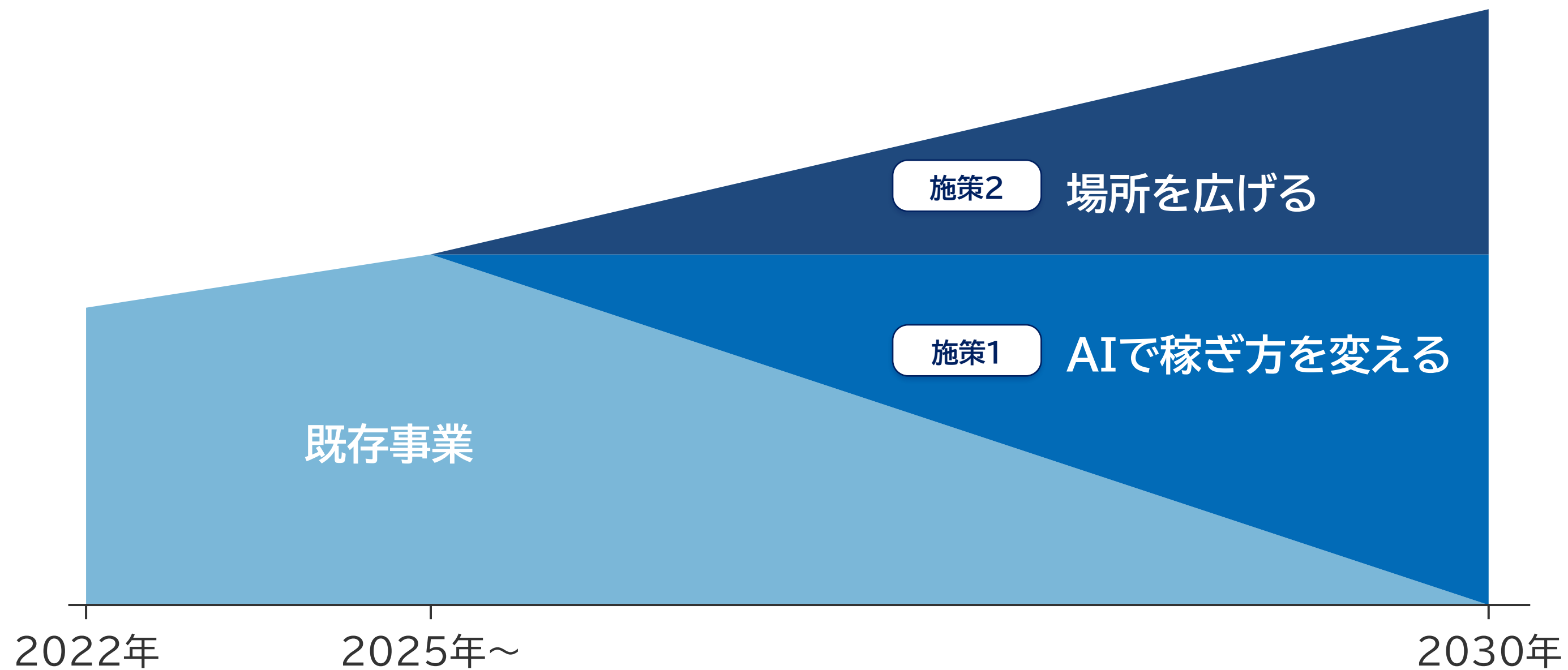
01 生成AIによる地殻変動。SIerは大きな転換期

02 2022年に描いた2030年が、3年で現実に

03 待っていたら変えられない。今、自ら変える

中期経営方針①:これからの姿 事業ポートフォリオの転換イメージ

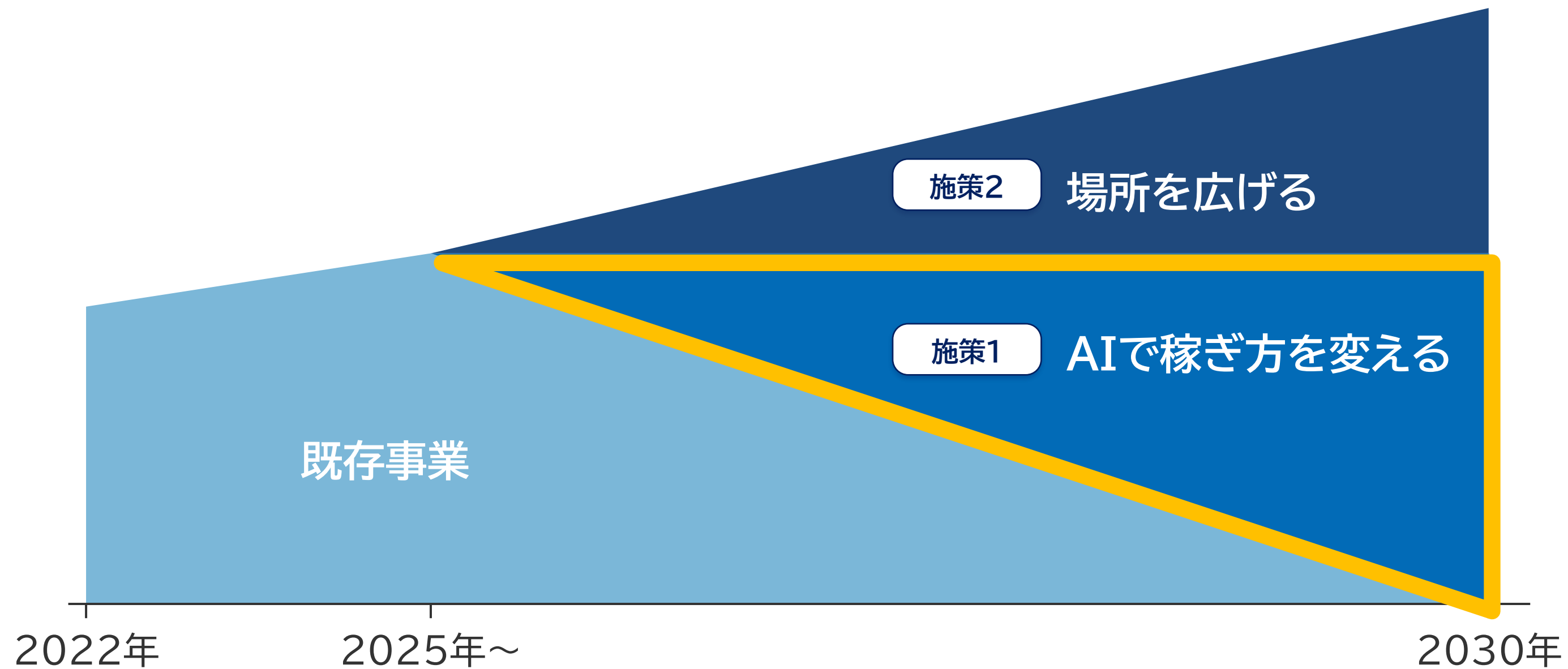
既存事業を土台に、AIで「稼ぎ方を変える」。さらに「場所を広げる」



中期経営方針①:施策1:AIで稼ぎ方を変える 一人月から、AIとつくるサービスへ

施策1

AIで稼ぎ方を変える



中期経営方針①:施策1:AIで稼ぎ方を変える 一人月から、AIとつくるサービスへ

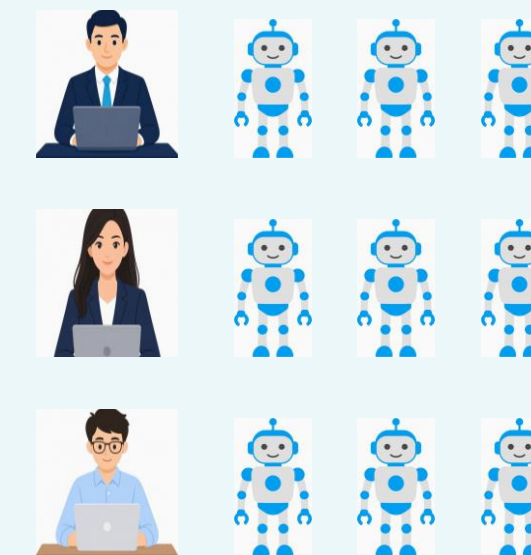
AIを使いこなす人が、何倍もの仕事を動かす。
対価は「何人で何ヶ月」から「どんな価値を提供したか」へ

これまで:労働集約型(人月商売)



対価 = 人数 × 期間

これから:サービス型(AI活用)



対価 = 提供する価値・サービス

PICK UP

この転換を、まず自ら実践する — 次ページ:グループ全社でのAI活用

PICK UP

AIで稼ぎ方を変える :トピックスーグループ全社でClaudeを使い、AIネイティブ企業へ グループ全社員を対象にClaudeを導入。自ら使い倒して得た知見を、お客様への新しいサービスに変えていく

01 全社員に配る



CACグループの全社員が
日常業務でClaudeを使う

02 全業務で使いこなす



構築・運用・BPOの全事業で活用し、
自社製品AZAREA Agent+とも連携

03 価値に変える



自ら実践して得た知見を、
Claude活用の新サービスとして提供

PICK UP AIで稼ぎ方を変える :トピックス ー生成AIで守りを固め、安心して使える体制をつくる

OpenAIの「ChatGPT」「Codex」などを活用し、人手中心の対策から生成AI駆動の防御へ。守りもAIで変える

AIを使う攻撃には、AIで対抗する ー サービスと開発の両面でセキュリティを高度化

01 AIで攻撃を防ぐ



生成AIを悪用した攻撃にもAIで対抗し、被害を未然に防ぐ

02 リスクを見える化する



情報漏洩・不正利用のリスクを可視化し、SOC・人材を強化して継続的に統制

03 安全なものづくりへ

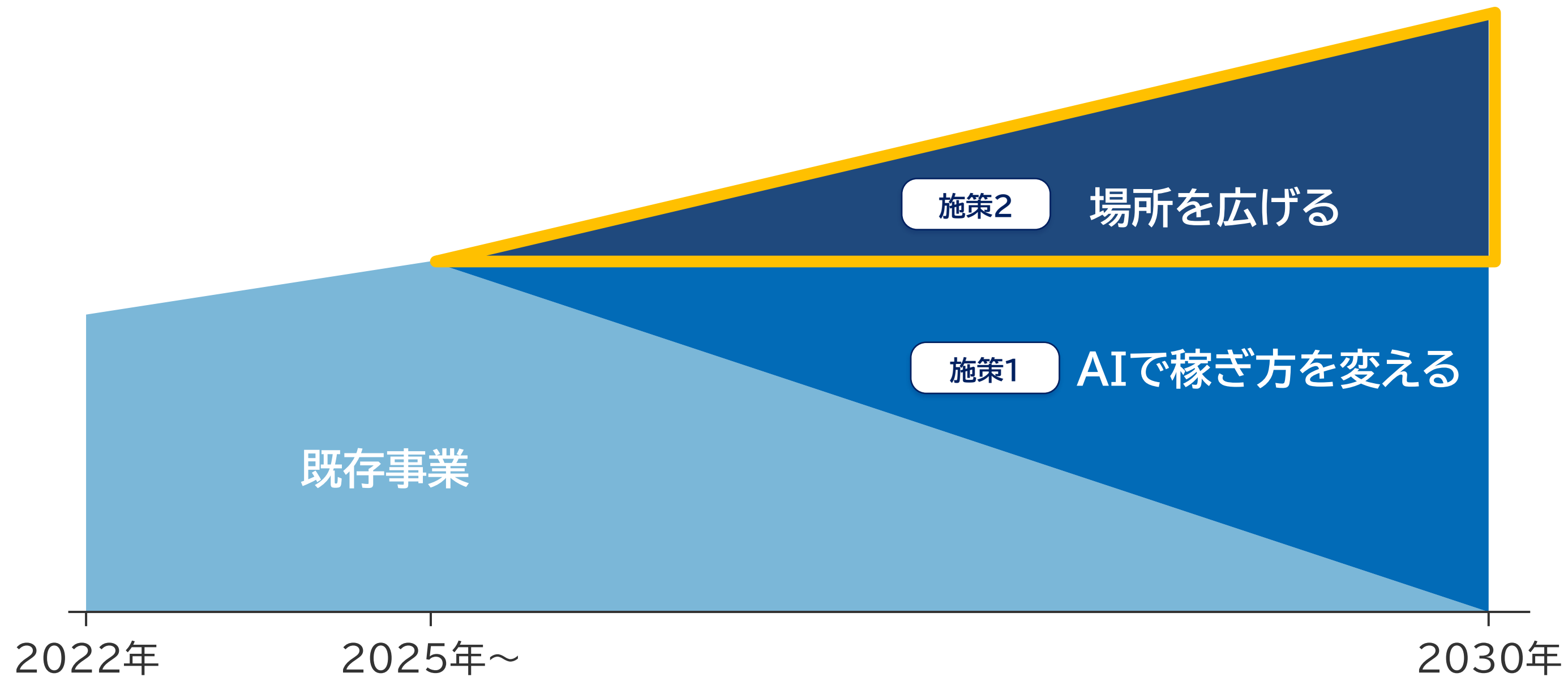


脆弱性を作り込まない体制を確立し、AIセキュリティの第三者認証取得も目指す

中期経営方針①施策2:場所を広げる 一仲間と新規事業で、AIを活かす領域を広げる

施策2

場所を広げる



中期経営方針①施策2:場所を広げる ー仲間と新規事業で、AIを活かす領域を広げる

AIで解ける課題は、企業システムの外にも広がる。
トップシェア企業を仲間にし、自ら新しい事業を生む

01 トップシェアの会社を仲間に(M&A)



各分野でトップシェアの会社を仲間に
商品群が増え、やがてグループのシナジーへ

02 AIで新しい製品を生む(新規事業)

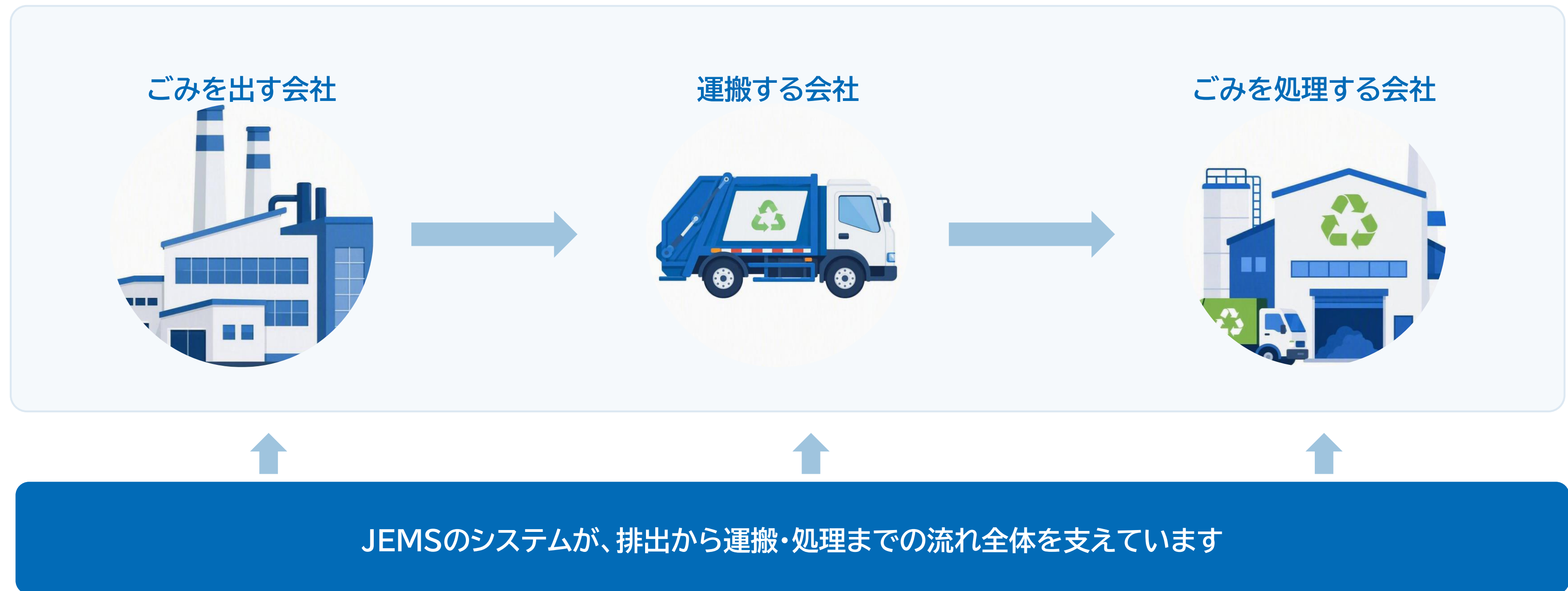


当社グループのAI技術で新しい製品を生む
自ら立ち上げるスタートアップとして

広げる先にあるのは、企業システムの外にある社会課題。医療・介護・働き方などの領域で、解決そのものを事業にする

PICK UP 場所を広げる M&Aの例 JEMS

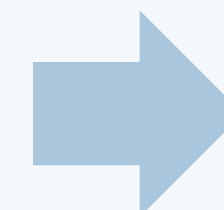
ごみを出す会社・運ぶ会社・処理する会社をつなぎ、ごみの流れ全体を管理



PICK UP 場所を広げる 新規事業の例 ながさきマリンファーム なぜ、海なのか

いけすの魚は大切な財産。しかし海の中では、魚がどれだけ成長したか把握できません。

わからない



動体認識AIで計測



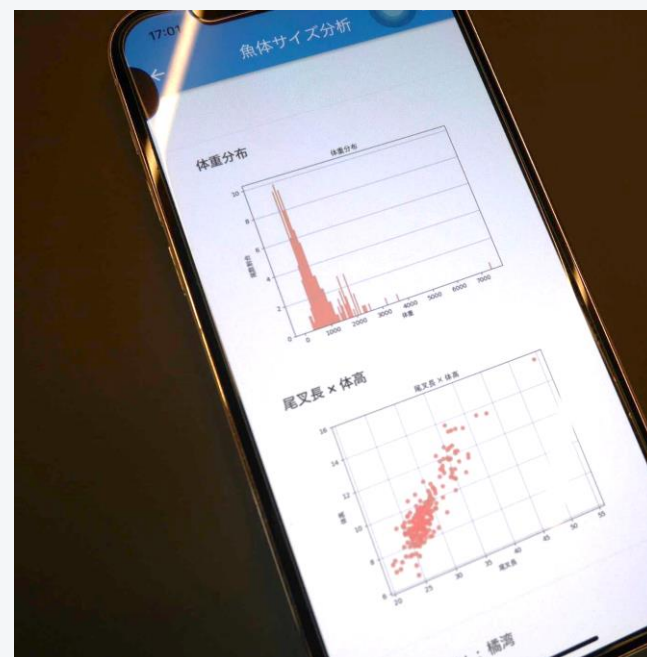
海の中の“わからない”を、AIで数字に変える

PICK UP 場所を広げる 新規事業の例 ながさきマリンファーム AIを使って

数値化できれば、財産になる。魚の価値を数字で示し、資金調達につなげます

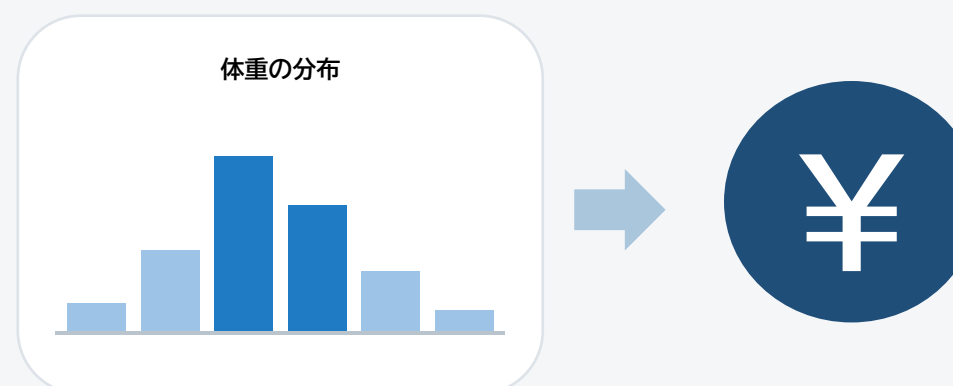
動体認識AIで測る → 価値を数字にして融資へ「FairLenz」 → 自ら養殖を始め、確かめる

01 測る



魚体鑑定・給餌分析などを
独自の動体認識AIで自動化

02 資金に変える



魚の価値を担保に融資を受けられる
仕組み「FairLenz」を金融機関と実証中

03 自ら、海へ



2025年「ながさきマリンファーム」設立。
自ら養殖を行い、今秋冬に初出荷へ

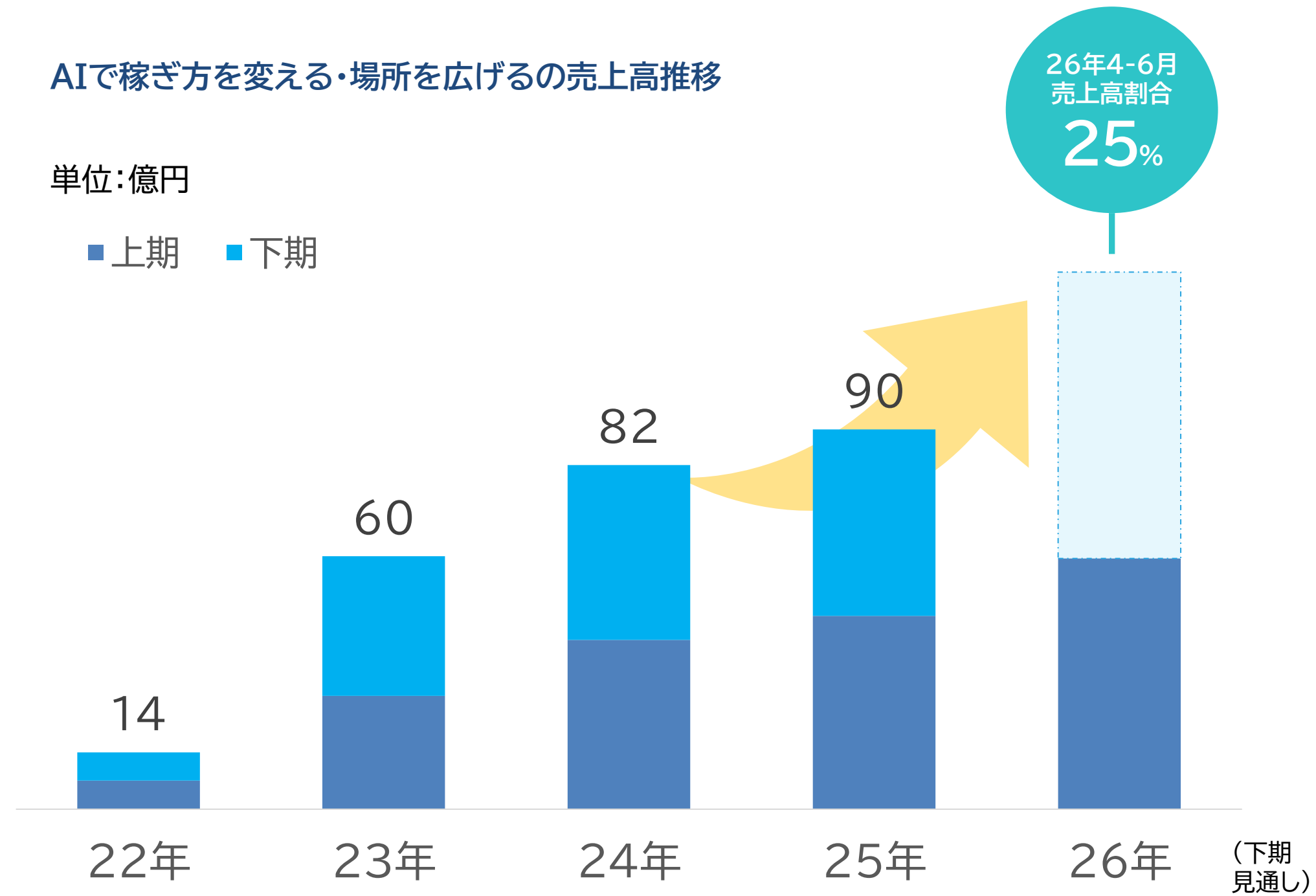
中期経営方針①:事業ポートフォリオの転換状況

26年にかけてM&Aを通じて拡大を加速

AIで稼ぎ方を変える・場所を広げるの売上高推移

単位:億円

■ 上期 ■ 下期



03

会社概要 —CACグループとは

中期経営方針 CAC Vision2030①:事業ポートフォリオの転換

中期経営方針 CAC Vision2030②:今後の財務方針

株主還元

本日のまとめ

中期経営方針②:キャッシュアロケーション ー当中期経営方針のスタンス

環境変化に迅速かつ柔軟に対応できる経営を最優先とする

当中期経営方針のスタンス

外部環境

AIの加速度的な発展と内製化の進展
より先を見据えた経営判断が重要になる



当中期経営方針

事業ポートフォリオを多様化する
既存事業に依存したポートフォリオは将来のリスク。CAC Vision 2030が掲げる社会課題の解決につながるビジネスへ転換



だから

中長期は「方向性の提示」にとどめる
環境変化に迅速かつ柔軟に対応できる経営を最優先とする

実行にあたってのスタンス

数値目標は公表しないが、
使い道は明確に決める

目標値ではなく方向性を示す
数値に縛られず、環境変化に応じた柔軟な経営判断を行う

使い道は決める
資本をどこに振り向けるかは明示する

財務は安定を維持
健全な財務基盤のもとで着実に実行する

中期経営方針②:2030年までのキャッシュアロケーション ー当中期経営方針のスタンス

M&Aは、財務健全性を担保しつつ外部調達を含め実施していく

株主還元は、事業から創出したキャッシュで実行

Cash in 約300億円～

外部調達
約100億円

政策保有株式の縮減
約40億円

事業からのキャッシュ創出(R&D控除前)
約160億円

Cash out 約300億円～

M&A 約130億円

財務健全性を保ちつつ外部調達も含めて実行

AI Transformation 約20億円

事業基盤・技術アセットへの継続投資

新規事業開発 約30億円

CAC identityを中心とする新規事業の創出

人的資本投資 約30億円

人材の獲得・育成と組織風土改革

PICK UP

株主還元 約90億円

DOE5%水準をベースに安定的・継続的に

04

会社概要 ―CACグループとは

中期経営方針 CAC Vision2030①:事業ポートフォリオの転換

中期経営方針 CAC Vision2030②:今後の財務方針

株主還元

本日のまとめ

株主還元

安定・継続的な配当指標としてDOEを採用、DOE5%水準の配当を目指す。

配当方針

- ・CAC Vision2030 Phase1の2年目以降、DOE5%水準を継続。
- ・利益変動の影響を受けにくいDOEを採用し、還元の安定性と資本効率の両立を図る

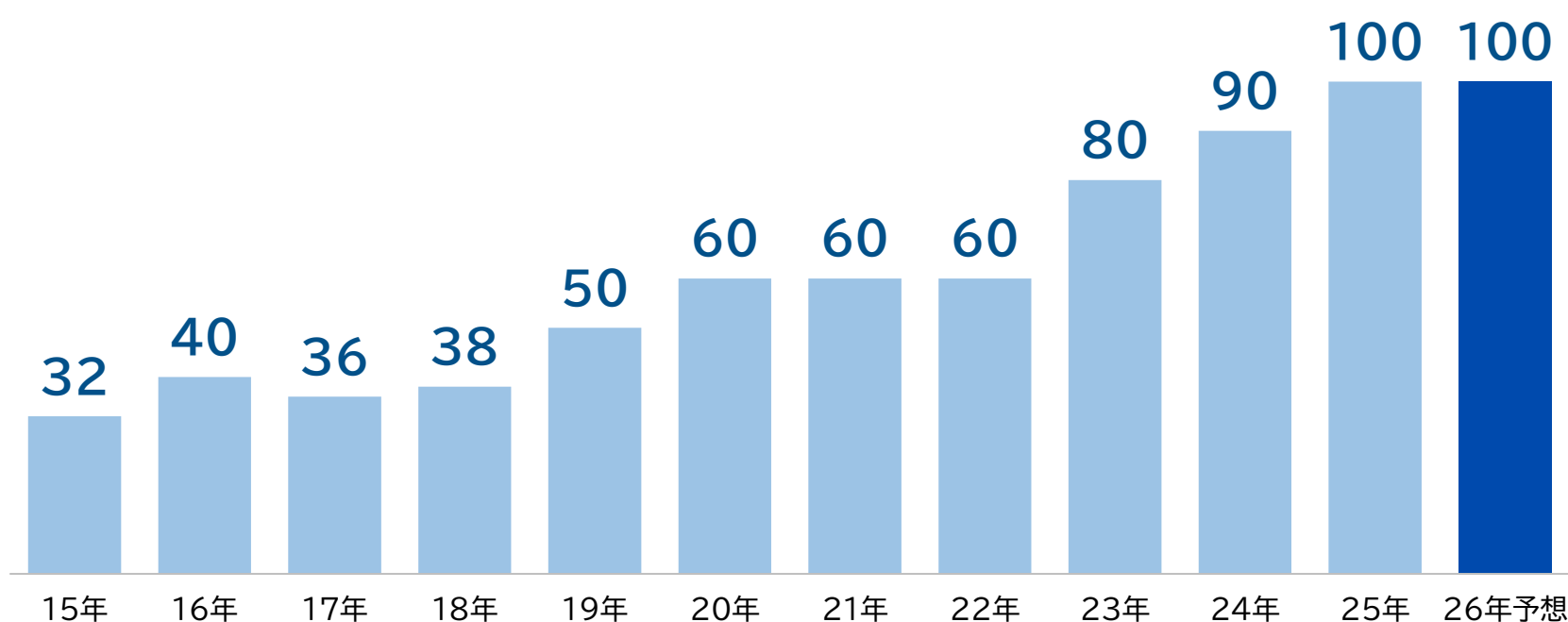
2026年配当

100円予想

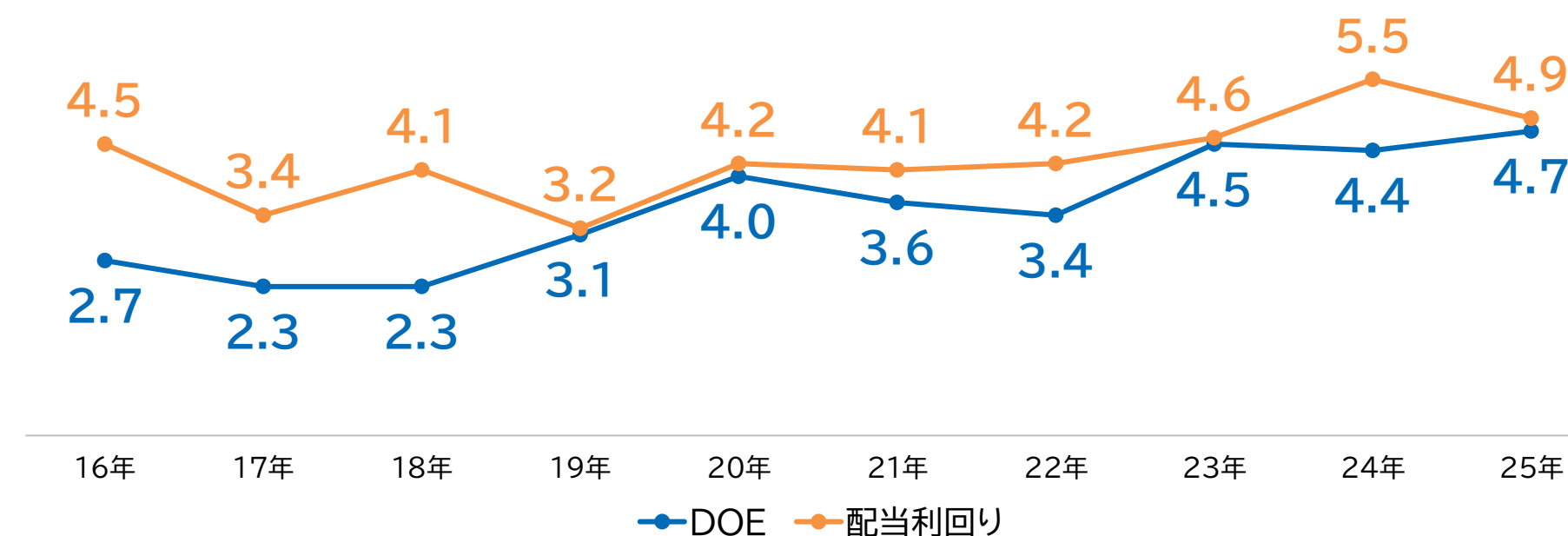
予想配当利回り 約5.2%

2026年8月14日終値1,936円基準・100株保有のケースで試算

1株当たり年間配当額の推移(円)



DOE・配当利回りの推移(%)



創業60周年記念株主優待のご案内

創業60周年の感謝を込め、対象の株主さまへQUOカードPay 1,000円相当を贈呈

対象となる株主さま

2026年12月末日現在の当社株主名簿に記載または
記録された、当社普通株式100株以上を保有する株主さま



優待品

QUOカードPay **1,000** 円相当

配当＋優待の総利回り

約5.7%

配当 約5.2% + 優待 約0.5%
(8月14日終値1,936円基準・100株保有のケースで試算)

※贈呈の時期および方法の詳細につきましては、2027年3月頃を予定しておりますが、決定次第改めてお知らせいたします。

05

会社概要 ーCACグループとは

中期経営方針 CAC Vision2030①:事業ポートフォリオの転換

中期経営方針 CAC Vision2030②:今後の財務方針

株主還元 ー資本の使い道と株主の皆さまへの還元

本日のまとめ

本日のまとめ

安定配当を維持しながら、事業ポートフォリオの転換に取り組む

01 株主還元

2026年度 年間配当(予想)

100円

予想配当利回り 約5.2% / 配当方針 DOE5%水準

創業60周年

記念株主優待を実施

QUOカードPay 1,000円相当

02 事業ポートフォリオの転換

- ・生成AIの進化を好機と捉え、
主力の受託開発事業を転換

これまで システム受託開発

01
AIで
稼ぎ方を変える
AIを活用した
サービス型へ

02
場所を広げる
M&Aと新規事業で
領域を広げる

CACグループのIR情報

QRコードから、当社IRサイトの各コンテンツをご覧ください

個人投資家の皆さまへ



投資をお考えの方向けに、事業や株主還元の考え方をわかりやすくご紹介

cac-holdings.com/ir/individual.html

IRライブラリー



決算短信・有価証券報告書・説明会資料・統合報告書(CAC REPORT)を掲載

cac-holdings.com/ir/irlibrary.html

決算説明資料・動画



決算説明会のプレゼンテーション資料と説明動画をご覧ください

cac-holdings.com/ir/shiryo.html

業績・財務情報



売上高・利益の推移や財務ハイライトを時系列でご確認いただけます

cac-holdings.com/ir/kessan.html

株式情報



株価情報、株式の状況、株式のお手続きに関するご案内

cac-holdings.com/ir/kabu.html

IRメール配信



最新のニュースリリースやIR情報をメールでお届けします(登録無料)

cac-holdings.com/ir/irmail.html

テクノロジーとアイデアで
社会にポジティブなインパクトを与え続ける
企業グループへ

Continue to make a positive impact on society
through technology and ideas

CAC 株式会社 **CAC Holdings**

証券コード:4725